

第5章 日本家畜人工授精師協会の設立と豚人工授精師の養成

1. 日本家畜人工授精師協会の設立

わが国における今日の家畜人工授精の発達は、古く滞欧中ソ連のサント・ペテルブルクのイワノフ Ivanov 研究室に学んだ元京都大学教授故石川日出鶴丸博士（1912）に端を発するとされている。石川博士は当時同研究室で活発に行われていた馬の人工授精と生理学的研究が、わが国馬匹の改良に多大の効果をもたらすばかりでなく生理学上に有益な研究であることを認め、帰国後この方面の研究指導に力を尽した。後年、わが国の家畜人工授精および精子の生理学的研究に貴重な多くの業績を残した佐藤繁雄（馬事研究所，1916）、越智真逸（京都府大医，1916）、山根甚信（北大農，1921）、島村虎猪（東大農，1927）の諸博士らも直接、間接に石川教授の指導に負うところが多い。このような関係からわが国の家畜人工授精は、まず馬について基礎的研究と相当規模の実地応用が行われた。

牛の人工授精については、昭和4年（1929年）進藤武男、柘田精一両氏が農林省畜試（千葉県千葉郡都村）から同県安房郡の嶺岡種畜場へ輸送したホルスタイン種精液で受胎に成功した事例が始まりであるとされているが、農林省畜試では昭和3～5年（1928～1930年）から乳牛、昭和5年（1930年）から家兎、同11年から鶏、同13年（1938年）から豚および山羊、同14年からめん羊、同15年から和牛および蜜蜂について人工授精の研究を開始し、一方馬事研究所（那須、のち畜産試験場に併合）では馬の人工授精の研究が続行されていずれも貴重な成果が得られた。

また、実際の応用面では馬の生産率増進事業、牛の集団的生殖器疾患（トリコモナス）の防除等に人工授精技術が貢献した。昭和29年（1954年）の実績によると、乳牛では総種付数の約9割に当たる約24万頭が、和牛では総種付数の約7割に当たる約54万頭が人工授精によって種付されており、馬（1万4,000頭）、豚（約2万頭）、めん羊（約3万頭）にも人工授精が実施される状況となった。

このような情勢下、昭和25年（1950年）に家畜改良増殖法が制定され、法律に基づく家畜人工授精師の資格取得の講習会が開催されるようになった。そして、家畜人工授精師の技術的、社会経済的地位確立のため、県単位の家畜人工授精師協会を設立する動きがあらわれ、昭和30年には既に県下を一円とする協会が21団体を数えるようになった。そして、昭和31年4月に農林省に招集された全国衛生主任者会議で、家畜人工授精師の中央団体の結成が望ましいとの強い発言があり、2回の設立世話人会の協議を経て、昭和31年9月1日、日本獣医師会館で設立総会が開催され、任意団体としての日本家畜人工授精師協会が設立された。

1) 日本家畜人工授精師協会(任意団体)：設立当初の事務所を東京都中央区銀座東4の4、畜産会館内におき、設立総会において次の役員(昭和31年度)が選出され、活動を開始した(敬称略)。

会長 笹山茂太郎(衆議院議員)、副会長 神尾正夫(中畜常務理事)、金木精一(千葉県家畜人工授精師協会会長)、理事(12名)、監事(2名)、顧問(9名)。

その後、日本家畜人工授精師協会は人工授精師の技術向上、その他適切な事業を推進して昭和35年1月には家畜人工授精師の免許取得者は約21,000名に上り、家畜人工授精所も2,400カ所を数えるに至り、大家畜における人工授精の普及率は乳用牛において約95%、役肉用牛において約75%を占め、諸外国に比べて遜色ない状態となった。ここに至ってさらに人工授精師の資質と地位向上、免許制度の強化等の観点から、新たに家畜人工授精師法の制定について陳情が行われた。(なお、この間に、(社)日本獣医師会(会長 越智勇一氏)から、家畜改良増殖法及び同法施行規則中の「家畜人工授精師でない者は、家畜人工授精用の精液を採取し、処理し、又はこれを雌の家畜に注入してはならない」を、「獣医師および家畜人工授精師でない者は、家畜人工授精用精液を採取し、処理し、又はこれを雌の家畜に注入してはならない」と改めること、および「獣医師でない家畜人工授精師は主治獣医師を定め、その指示を受けるよう規定すること」等の陳情が行われ、そのように改められた)。

次いで、昭和40年5月の第3回通常総会において、任意団体から公益法人(社団法人)への改編が議決された。

2) 社団法人 日本家畜人工授精師協会の設立：上記のような経緯を経て(社)日本家畜人工授精師協会の第1回設立発起人会が昭和40年10月1日、衆議院議員会館において開催され、諸般の準備を完了して、昭和41年6月28日、全国町村会館において任意団体の解散総会と同時に、新しく発足することになった社団法人日本家畜人工授精師協会の設立総会が開催された。総会では新協会の昭和41年度事業計画、収支予算を決定し、新役員に次の諸氏(敬称略)を選出し、事務所を全国町村会館内(社)中央畜産会内に設置すること等を決定した。

会長 笹山茂太郎(学識経験者)、副会長 山中貞則(学識経験者)、金木精一(千葉県)、常務理事 庄村清治(学識経験者)、理事(11名)、監事(2名)。

その後、会長 山中貞則(衆議院議員)、副会長 高島照治、常務理事 大久保 瑛、内藤進、事務局長 中村健士、野村亀二郎、竹内宏之、辻 英一氏らの時代が続き、協会は順調な発展を続けてきたが、平成12年(2000年)6月現在の状況は次のとおりとなっている(敬称略)。

名誉会長 山中貞則、会長 高島照治、副会長 内藤 進、平尾和義、常務理事 檜崎秀夫、事務局長 高橋 正、理事(10名)、監事(3名)

事務所：東京都中央区京橋 1-19-8, 大野ビル 5 階

事業の概要：① ブロック会議の開催 ② 技術の普及定着 ③ 機関誌（家畜人工授精）の発行
 ④ 家畜人工授精優良技術発表全国大会の開催（筆者も第1回以降10数回、助言者として出席した）。⑤ 表彰事業 ⑥ 家畜人工授精関係の資料作製及び情報発進事業，その他
 会員構成員数：5,650名（目標），全都道府県の加入を目指して組織強化を図る。

2. 家畜人工授精師数

農水省家畜生産課の資料によると，平成9年（1997年）末現在の家畜人工授精師数および業務の実態は表12.15のとおりである。

表 12.15 家畜人工授精師数および業務の実態（1997年末）

家畜人工授精師総数 (12月末現在)	うち業務に従事 中の者	年末総数の内訳（のべ人数）								家畜人工授精，体内受精卵および体外受精卵移植の業務		獣医師	
		牛		馬		めん羊		豚				総数	就業
		免許	就業	免許	就業	免許	就業	免許	就業				
62,425 (53,984)	6,352 (6,112)	47,732	5,961	1,005	29	1,778	25	11,904	337	211	109	236	2,725

(注) 1. () 内は実人員

2. 獣医師の専業は家畜人工授精の業務のみ行っている者，兼業は家畜人工授精の業務と他の業務を兼業

3. 家畜人工授精師の養成

昭和25年に家畜改良増殖法（法律第209号）並びに同施行規則（農林省令第96号）が制定されてからこれに基づく家畜（牛，馬，めん羊，豚）の人工授精師が全国的に養成されるようになった。さらに近年，家畜の受精卵（体内，体外）移植の研究が進み，これが実施されるようになったことに伴い，家畜改良増殖法および同施行規則も改正され（最終改正，平成6年11月11日，法律第97号および農林水産省令第78号），家畜人工授精師養成講習会の内容もより専門的となった。

（豚人工授精師の養成）

豚の人工授精師養成についても，上記の家畜改良増殖法および同施行規則に則って都道府県，大学農学部畜産学科等において養成講習会を開催し，年々相当数の新しい豚人工授精師が誕生して，わが国の豚の改良増殖に重要な任務を果している。筆者も都道府県や大学（東京農業大学，信州大学農学部，岩手大学農学部）等において開催された豚人工授精師養成講習会に昭和25年頃から，しばしば講師として出席し，多数の人工授精師の養成に積極的に協力した。当時の苦労は並大抵ではなかったが，今となっては懐しい思い出である。

次に、古い話であるが、農林省畜試での研究で、豚人工授精の技術がほぼ確立した段階で、(社)日本種豚登録協会(会長 田口教一氏)は昭和24年7月15日～24日までの10日間、全国からの受講希望者を対象として、千葉県総合種畜場(印旛郡富里村七栄)で第1回豚人工授精講習会を開催した。当時の受講生(別記)は元気旺盛な青年-中高年の方々であったが、現在生存ならば相当の年配者であろう。

講師は農林省畜試から伊藤祐之、丹羽太左衛門、瑞穂 当ら、農林省畜産局係官、千葉県総合種畜場係官、(社)日本種豚登録協会幹部らがつとめた。

受講生はほとんど全員成田市の扇屋旅館に宿泊して毎日バス(京成成田駅経由)で種畜場まで送迎され、受講態度はきわめて熱心であった。講習会は千葉県総合種畜場の全面的なご協力ですべて無事終了し、40名中30名が合格した。

また、昭和26年11月20日～29日までの10日間、九州農試畜産部において、同様第2回の講習会が開催され、受講者21名中13名が合格した。

第1回豚人工授精講習会受講者名簿 社団法人日本種豚登録協会

住 所	番号	班別	氏 名	備 考
茨城県那珂郡那珂湊町小川	1	1班	磯 前 濱太郎	
〃 東茨城郡下大野村平戸	2		新 井 正 四	
〃 真壁郡下館町東町	3		上 野 榮 藏	
〃 筑波郡十和村日川	4		濱 野 隆 一	
〃 東茨城郡酒門村若宮	5		大 瀧 亮 三	
埼玉県大里郡小原村須賀広 784	6	2班	井 上 和 男	
東京都北多摩郡調布町国領 380	7		小 林 三 郎	
埼玉県入間郡高萩村久星種畜農場	8		児 玉 保	
〃 北足立郡内間木村宮戸 855	9		秋 田 順 三	
〃 北埼玉郡屈巢村 4786	10		瀧 澤 弘	
〃 入間郡入間村大字水野 1036	11	3班	小野田 利 一	
滋賀県栗太郡治田村小柿	12		坂 下 靖	
〃 蒲生郡北比都佐村字山本	13		川 端 宏	
東京都 (通勤)			小 林 隆 清	
兵庫県加古郡八幡村 高田牧場	14		渡 邊 勲	
〃 加東郡加茂村	15	4班	竹 内 逸 次	
千葉県印旛郡佐倉町田町	16		寺 田 新 吉	
〃 〃 和田村上勝田 53	17		那 須 利 夫	
〃 香取郡栗源町助澤 703	18		高 橋 操	
〃 千葉郡睦村吉橋 1364	19		春 田 彰 三	
〃 山武郡東金町川場 1105	20	5班	小 川 勝	
〃 匝瑳郡東陽村	21		近 藤 友 二	
〃 市原郡五井町根山 850-1	22		海老原 公 男	
〃 香取郡佐原町	23		大 原 光	
〃 千葉郡大和田町新木戸	24		山 田 武 夫	
〃 印旛郡酒々井町 1685	25	伊 能 義 藏		

第12編 豚人工授精の歩み

〃 山武郡鳴濱村本須賀	26	6 班	海 保 耕 作	
〃 印旛郡富里村七栄	27		小 山 昭二郎	
〃 松尾町八田 1212	28		伊 藤 勝 夫	
〃 夷隅郡大多喜町森宮 170	29		宇 野 武 夫	
〃 〃 東海村 2213	30		藍 野 弘 一	
千葉県館山市川名 699	31	7 班	石 井 館一郎	
〃 印旛郡富里村七栄	32		伊 東 郁 雄	
〃 印旛郡	33		椎 名 勘 一	
山梨県北都留郡賑岡村	34		山 口 英 夫	
〃 西山梨郡住吉村 県立種畜場内	35		手 塚 義 和	
新潟県中魚沼郡上野村大字上野 273	36	8 班	近 藤 敬 一	
〃 〃 仙田村岩瀬	37		登 坂 孝 丸	
東京都北多摩郡久留米村落合 30	38		植 松 文 雅	
長野県下伊那郡市田村	39		小 川 博 志	
〃 南佐久郡畑八村 3987	40		笹 崎 嘉三郎	

主 な 参 考 資 料

- 1) 丹羽太左衛門, 栢田精一, 西川義正, 吉岡善三郎: 最新 家畜の人工授精, 改訂版, 明文書房(東京) (1970)
- 2) 畜産試験場創立 70 周年記念事業協賛会: 畜産試験場 70 年史, 昭和 61.3 (1986)
- 3) (社)日本家畜人工授精師協会: 「家畜人工授精変遷史」昭和 62.3 (1987)
- 4) (社)日本家畜人工授精師協会: 第 1 回～第 28 回家畜人工授精師全国研修大会, 優良技術発表要旨・特別講演資料, 昭和 48.1～平成 12.2 (1973～2000)
- 5) (社)日本家畜人工授精師協会: 家畜繁殖技術研修会テキスト(豚の人工授精), 第 2 部 豚の人工授精(丹羽太左衛門), 平成 9 年度 (1997)